

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計 30	

事業所番号	4678200108
法人名	有限会社 千華
事業所名	グループホーム 鶴と亀
訪問調査日	平成 19 年 7 月 20 日
評価確定日	平成 19 年 11月 2 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 7月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	4678200108
法人名	有限会社 千華
事業所名	グループホーム 鶴と亀
所在地	鹿児島県熊毛郡上屋久町小瀬田849番地18 (電話) 0997-43-5501
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48-13
訪問調査日	平成19年7月20日

【情報提供票より】(平成19年5月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 9 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 10 人, 非常勤 11 人, 常勤換算	11,4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(30,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	350 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 50 円

(4) 利用者の概要(5 月 31 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低 65 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小瀬田診療所 小瀬田診療所歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの前には緑の芝生が広がり、その向こうに種子島を望む青い海、ホームの後ろには屋久島の山々が見渡せる自然に恵まれた環境に立地している。広い芝生を活かして小運動会など行事を数多く催しており、これが家族の参加や交流促進に大きく役立っている。職員は自ら考えた基本理念を大切にしながらケアを実践しているが、現状に満足することなく、常に「なぜ、どうして、どうしたら」という視点を持ちながら利用者と向き合っている。また、職員の年齢構成は幅広く、それぞれの経験を活かして得手・不得手を補ない合いながら、「チームとして利用者一人ひとりのニーズに応えるケアの実践」を目指して支援をしている。また、隣接して診療所と歯科があり、医療連携体制が整っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を職員全員に伝え、毎月の運営会議で更なる質向上に向けた意見交換や工夫等について取り組みをしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者はもとより職員全員で点検が行なわれた。ケアの質向上に向けた事業所全体の前向きな姿勢が「取り組んでいきたい内容」からもうかがえる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	5月に第一回目の会議が開催された。行政担当者・第三者委員・地域住民の代表・利用者家族の代表などが参加し、グループホーム説明や今後の取り組みなどが話し合われた。次回は2ヶ月後に開催の予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	3ヶ月毎のホーム便りの発行と、受け持ち担当職員手書きの毎月の近況報告書で家族へ生活ぶりを定期的に報告している。また、面会時には必ず声をかけて家族が意見や要望を言いやすい関係作り・雰囲気作りに努めている。行事の際に家族が集まる機会を活用して、意見交換を図っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の清掃活動に職員が参加しているほか、職場体験学習や民生委員の来訪などを受け入れている。また、お祭りや敬老会など地域行事への参加も行なわれている。地域密着型として、地域との日常的な交流が更に増していく取り組みを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で意見を出し合って事業所独自の理念をつくりあげた。利用者の気持ちに寄り添い、笑顔と安らぎのある生活空間を創り、地域とのふれあいを大切にすることがうたわれている。		地域密着型サービスとしての、果たすべき役割や考え方を理念に加えられることが期待される。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目につきやすい場所に掲示されており、毎朝の申し送り時に唱和している。また、職員や管理者は、ケアの質向上や問題の解決・改善などについて話し合いを行なう時、常に理念をベースにして物事を考えるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭りや花火大会に参加している。また、地域の清掃活動に職員が参加するなど地域との交流に努めている。		地域の人々との日常的な交流の機会を増やしていくために、積極的な取り組みや工夫が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価及び外部評価の結果は全職員に伝え、改善すべき点については毎月開催される運営会議で具体的な改善策を話し合っている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者、利用者、家族、地域住民代表者等に事業所の状況を報告し意見交換を行っている。次回は7月末に開催の予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎号ホーム便りを届けるなど行政との連携を図っている。また、中学生職場体験学習や民生委員の来訪を受け入れるなど多くの機関・団体との交流をすすめている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月毎発行のホーム便り「鶴と亀新聞」は、行事や暮らしぶりのほか利用者の作品紹介や職員紹介などを掲載している。また、これとは別に毎月、利用者の写真を載せた職員手書きの現状報告書も家族に送っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会が設置され、重要事項説明書に連絡先が明記されている。また、事業所の玄関にご意見箱が設えてある。家族会については、行事の時など家族が集まる機会を活用して設立の働きかけを続けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定して馴染みの関係が変わらないように配慮しているが、退職等の異動が一時的に多い時期があった。		退職等の異動は利用者との馴染みの関係に影響を与えるので、今後検討が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がまんべんなく研修に参加できるように輪番制をとっている。研修に参加した職員は報告書を作成し、職員会議等で研修内容の伝達を行っている。		職員の経験や習熟度に応じて計画的に人材育成を行なう仕組み作りが望まれる。派遣研修のほかに、年間計画化しやすい工夫として、事業所内研修や関連事業所と共同で行なう研修等について検討することが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や介護老人福祉施設や居宅介護支援事業者など関連事業所との交流や相互訪問を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を決める前に、本人・家族にホームに遊びに来てもらい、一緒に食事をしたり、行事やレクリエーションに参加するなど馴染みの関係を作れるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩である入居者から生活の智恵や風習などを教えてもらうという態度で接しながら、共に支えあえる関係作りに努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情・態度などから利用者の思いや意向を把握するように努めている。アセスメントは、入居時に計画作成担当者が行ったのち、受け持ちの担当者がそれを引き継いで行っており、継続的・多角的に実施されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントで得られた利用者や家族の意向をもとに、計画作成担当者と受け持ちの担当者が意見交換を行ないながら利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状況を記録し、介護計画の見直しが必要と思われる場合はケース会議を開催している。このほか、計画作成担当者は月に1度以上計画実施の状況を記録し、3ヶ月ごとに短期目標についてモニタリングを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて、地元以外の地区で開催されるグランドゴルフ競技に参加できるように支援を行ったり、やきとり屋への晩酌外出や墓参りを支援するなど柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から通っていた医療機関で受診が出来るように支援している。受診時に職員が付き添った場合、受診結果は看護師が家族に電話連絡し、日誌に記載して職員に申し送っている。家族が付き添った場合は、担当者が家族から聞き取って、日誌に記載して職員に申し送っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は家族及びかかりつけ医と連携をとりながら方針を検討しているが、終末期のあり方については、まだ確立されていない。		地域の終末期ケアに対する一定の役割も含めて協議を重ね、重度化や終末期のあり方について事業所としての方向性を明確にすることが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目立たずさりげない介助や声かけが行われている。管理者は職員一人ひとりと月に一度面接を行い、利用者の尊厳遵守について話し合う機会を設けている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者一人ひとりの希望やペースに合わせた柔軟な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム敷地内にある畑で採れた野菜や外出先で摘んだ山菜を使うなど、利用者が下ごしらえや調理に楽しみを感じられるように工夫している。準備や食事、片付けは利用者と職員と一緒にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に合わせて時間や回数など自由に入浴ができるようにしている。入浴を拒む方へは声かけの仕方や職員を変えてさりげなく促している。また、羞恥心に配慮して入浴を支援する職員を変えるなど柔軟な対応を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り、裁縫、梅酒作り、ちまき作り、釣りなど入居者の経験や知恵を活かす支援を行っている。また、入居前に居住していた地区で開催される敬老会にそれぞれが参加できるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節感を肌で感じられるように、散歩・買い物・ドライブなどの外出を日常的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。入居者が戸外に出る時は職員がさりげなく付いて見守りを行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、夜間想定も含めて年2回消火・避難訓練を実施しており、地域の方々への参加の働きかけも続けている。救命救急法の学習も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量については、毎日記録し職員が情報を共有できるようにしている。献立については、定期的に母体医療機関の栄養士からアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的で木のぬくもりが感じられる造りとなっている。ダイニングには畳スペースや大きなソファがあり、入居者は思い思いにゆったり過ごしている。また、さりげない季節の装飾と花を供えた仏壇等を設置したコーナーが生活感を醸し出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は今まで使っていたものを持ち込んでもらっている。家族には、なるべく環境を変えない事の大切さを説明し、馴染みの物や家財道具を自由に持ち込んでもらうように勧めて、利用者の生活感や個性が表れる部屋作りに努めている。		